

ことばの乱れは、どの時代のどの社会においても、程度の差はあるものの、常に存在する。人びとは、過去の言語に照らし今のことばの乱れを実感することもあれば、未来への願望や理想を追い求めるがために現実のことばに乱れを感じる場合もある。これまで人間はことばの乱れを嘆くたびに、それを克服しようとして努力し、さまざまなコミュニケーションの障壁を乗り越えてきた。これは中国においても決して例外ではない。

前三世紀ころ秦朝の宰相李斯は、文字書体の混乱が国家統一の妨げとなることを嘆き、強力な言語政策を敢行することに、文字統一の偉業を成し遂げた。

一世紀ころ学者楊雄は、地域言語の乱れと意思疎通の困難さを嘆き、二十七年間「三寸弱翰、油素四尺」（短い筆と長い絹紙）を携えて方々を訪ねてまわり、世界史上初のフィールドワークに基く『方言』辞書を誕生させた。

二世紀ころ学者許慎は、牽強付会な文字解釈の氾濫を嘆き、字形、意味と発音を併記する文字学の聖典『説文解字』を著した。

特集

日本語は乱れているか!?

世界の嘆き「ことばの乱れ」

中国編

彭 国躍（ほう こくやく）

よる漢字化）などのような広告の言語表記の乱れや、「朋友」（見知らぬ人）、「同志」（同性愛者）、「小姐」（風俗嬢）などのような呼称の乱れや、「猫」（モテム）、「酒屋」（Windows95）、「687」（对不起：すみません）などのようなインターネット上の、発音の類似による造語の氾濫を嘆く声が聞こえてきている。

（神奈川大学外国語学部／社会言語学）

六世紀ころ教育者顔之推は、敬語表現の乱れを嘆き、「顔氏家訓」の中で人間関係に即した正しい敬語運用法を説いた。

十八世紀ころ清朝の雍正皇帝は、「官話」（標準語）音の乱れが行政に悪影響を与えたことを嘆き、「正音書院」（標準語音教育センター）を設立した。

一九七〇年代に社会言語学者陳原は、文化大革命の時暴力革命を謳歌するあまり罵倒語などの言語暴力が横行したことを嘆き、「言語浄化」運動を提唱した。

そして、経済の高度成長が続く今では、「SHARP」＝「夏普」（北京語音による漢字化）＝「聲寶」（広東語音による漢字化）